

ATACが全国に呼びかけて2012年11月9日に「第6回OB活用全国会議」を大阪で開催しました。大阪での開催は、2009年の第3回会議以来です。



東京から広島までの中小企業に対する支援機関10機関（組合、NPO法人、財団法人）から17名の代表者が出席されました。

冒頭、ATAC運営委員長梶原孝生から、今回の会議では議題として「運営上の問題点」と「クライアントの確保」を取り上げる、また、会議の後、招待講演として株式会社エンジニア社長の高崎充弘氏から「モノづくり企業を活性化する4つの秘訣」と題して講演していただき、との案内がありました。

各機関の代表者から、組織の簡単な概要（メンバー人員、特徴など）の説明のあと、「組織活動の現状、運営上の問題点と今後の課題、およびクライアントの確保」について報告があり、質疑・討議を行いました。その要点を以下に紹介します。

各支援機関の共通した基本理念

および活動方針

会員スタッフは大企業出身のOBであり、これまで培ってきた技術やノウハウなどを活用して中小企業が抱えている問題、課題を解決するための支援活動を行っている技術者集団である。

クライアントを拡大するための営業活動を通じて、ものづくり産業、地域社会の発展に貢献することを目的としている。

各組織が抱えている運営上の問題点と

今後の課題

昨今の厳しい経営環境下で、経費節減などの理由から生産技術の改善やISO認証取得への支援要請が減少している。一方、公的資金の活用に伴う申請手続き、環境エネルギー対応、中堅社員教育の支援ニーズが高まっている。

また、組織スタッフの高齢化が進んでおり、50歳台の若い新会員の勧誘・補充が共通の悩みであり、緊急の課題である。

クライアントの確保、受注拡大

これまで指導・支援してきた企業で、現在、休眠中や、支援中断している企業に対して、再度アプローチして企業の支援要請や困っていることなどを聞き出す掘り起こし（深耕）を計るべきだとの意見が出された。

新規の顧客開拓には、かなりのエネルギーが必要で、官公庁・公的機関・経済団体や支援機関、マスコミ、金融機関との連携を密にして、より有効な支援・お手伝いができるよう、さらに一層努力すべきとの意見が多かった。



なお、クライアントの中小企業様に対しては、困っていることや支援が必要なことを気軽に相談してもらうように積極的に働きかけよう、と誓い合った。

講演会のあと盛り上がった交流会

NPO法人ノーハウ会理事長の石毛 浩様のご発声の乾杯で始まり、高崎講師も交えて、親しく懇談し、お互い有意義な情報交換を行い、和気藹々の内に時間が過ぎました。（多根井）

